

語学留学、授業の感想(10月レポート)

山本 裕之

前回9月のレポートでは時代背景とそこから来る中国渡航の不安、そしてそれは実際に来てみると取り越し苦労であったことを書きました。日本のニュースでは相変わらず注目の中国ですが、こちらのSNSでは一時の陰悪ムードは目ただなくなつたような気がします。

さて、今回は語学留学の一番の関心事である授業について報告します。私は中国語を学びたい。中国語を学んで埼玉県にいる中国の方と交流したいという目的で本奨学制度に申し込みました。今回の奨学制度では山西大学の国際教育交流学院、学部(大学)、大学院のいずれかに奨学生として派遣されますが、中国語を学びたいという私のケースでは語学留学として国際教育交流学院で中国語を学ぶ事になります。〇〇学院というと別の学校のように感じますが、こちらでは学部の事を学院という呼び方をしており、山西大学の一つの学部の位置づけのようです。

授業の報告にあたり、そもそも「語学を学ぶ上で海外留学が必要なのか」という話が出るかもしれません。中国語を聞き、読み、理解するだけであれば、確かにそういう考え方もできます。実際、最初の2か月、先生の言う中国語は標準語だし、こちらの言うことも発音・声調・文法の誤り含め理解しようとしていただき、劣等感の意識なく勉強ができました。ところが10月最後の週、第二陣の生徒が追加され、クラスの数が増加、授業内のやりとりも先生と生徒の会話ではなく、生徒がグループ分けされ、グループごとの討議が始まったとたん、劣等感にさいなまれることになりました。それは、海外留学でないと体験できないことで、他の国の方とお互い母語ではない言語で討論するという体験こそ海外留学に意味があると感じるできごとでした。

中国語の何を勉強するのか。第二陣の生徒の増加でなにが変わったのかと言えば、子供のころから中国語に接触していた人達が増えたことです。彼らの中国語は早い。表現がおかしいですが、音の世界から来た人たちと、文字の世界から入った日本人の違いとでも言いましょうか、音から入っている彼らは発音(独特の発音だが)ができるし、また発音に厳しい。わたしの中国語を聞き取ってくれません。彼らが学ぼうとしているのは中国語の語彙と文化、漢字。

かたや日本人は、漢字の恩恵があり中国語の語彙(≒日本語の漢字の語彙)はかなりあります。日本から中国に逆輸入された熟語も多いですし、なにより日本人は漢字の持つ基本的なイメージを持っています。これが時にとんでもない勘違いを生むこともあります。日本人が中国語を勉強しやすい一面だと思います。文化の面でも私の私見ですが日本と中国は90%以上似ています。文化については、また別の機会に報告したいと思いますが、いずれにしても、文字の世界から来た日本人の私はこの音の世界でサバイバルすることで何か殻を破れるのではないかと期待しています。

11月から、音の世界から来た若い人たちと一緒に、頭の固い文字にこだわるおじさんがグループ討議できるのだろうか。心配でもあり楽しみです。

現在、自己分析による課題は、発音と声調、基本表現。それをどのように克服するか試行錯誤中です。一定の成果が出たら別途報告したいと思います。

第二の地元となった川口で送別会を開いていただいた際、年配の方から、「語学は簡単だよ、現地で恋人をつくればすぐだよ」と言われましたが、60歳でそのようなことができるはずもなく、またそのような性格ではないので、なんとか自分なりの勉強方法をあみだし課題の克服に努めたいと考えています。

以下、全体像を簡単にまとめました。

【全体の規模】

国際教育交流学院の学生はすべて外国からの留学生です。10月末時点で約132人。(9月からの第一次が68人、10月30日から追加された第二次が64人。)国籍はベトナム、インドネシア、フィリピン、モンゴル、ラオス、スルタン、トルクメニスタン、ミャンマー、ほか。

多くの若い方々が中国語を学ぶ姿に中国の勢いを感じるとともに、中国とアジア圏のつながりの深さを感じます。

【クラス分け】

簡単なテストで大きく三つのクラスにクラス分けされます。初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級。

私は中級クラスに振り分けられました。HSK(中国語の検定テスト)レベルでは3級から5級ぐらいの人がいるようです。私は独学で中国語を勉強していたもののHSKを受けたことがなかったため、本奨学制度に応募した後、HSK5級の集中勉強をして、結果5級200点越えて今回の留学に望みました。ひとまず中級クラスに振り分けられ安心しました。

中級クラスのクラスメートは当初12名、10月末に22名増えて現在34名。冒頭書きましたがこの10月末増加組の中にレベルの高い方が多かったです。レベルが高いというか、もともと基本の中国語の発話に慣れている。

【中級クラスの教科】

授業は3科目、中級口語、中級閲読、中級総合。

書いてある文章は辞書を引けばわかる範囲だし、先生の言われていることもだいたいわかる。ただ一番肝心な言葉が出てこない。簡単な返しさえできない状況。

教科書に掲載されている文章についてはまた別途報告したいと思いますが、古代中国を師とした現代中国と日本、文化や考え方で似ている部分が多い反面、大陸的な理解しがたいものや、この話の結論はなんですかと先生に問うと結論はありませんとさらりと返答があったりとなかなか興味深いです。

【帰宅(寮)後の勉強】

授業は午前中で終わってしまうので、午後はとにかく予習をしてわからない単語はなくしておきます。文章を繰り返し音読する。意味を理解しフレーズで復唱。何日か繰り返していると前回スルーしていたがわからなかった単語があぶり出てくるから不思議です。結構これが勉強になっています。

【写真】

① 埼玉県川口市を紹介しているプレゼン風景。



② 習字の課外授業風景



③ 10月末に生徒が増え一般教室に移動

60歳にしてまた大学の教室で授業ができるのも楽しい。



以上